

# CASBEE<sup>®</sup> 京都-新築

## 標準システム

■使用評価マニュアル：CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 | 使用評価ソフト：CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京都市新北消防署(仮称)	階数	地上3F
建設地	京都市北区大宮西脇台町17の一部	構造	SRC造
用途地域	第一種中高層、第二種中高層、防火地域	平均居住人員	0人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年2月 予定	評価の実施日	2018年9月28日
敷地面積	2,888.12 m <sup>2</sup>	作成者	㈱内藤建築事務所
建築面積	1,673.42 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	3,180.42 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.3

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.8

LR のスコア = 3.4

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.8

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
都市公園に隣接している立地を生かし、地域住民や公園利用者も消防署を身近に感じ取りながら、一般開放するゾーンを設け地域と連携を図る消防署と計画した。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
格子ルーバー・各階約2mの軒庇を設置、高断熱材を使用し熱負荷に配慮した。	3階の執務室を南側に配置し、南側に大開口のサッシ及びび行スを設け、執務環境に配慮した。	縦格子及び軒庇を設け景観に配慮した。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
高断熱材や複層ガラス、軒庇や格子ルーバーを設け熱損失の軽減を図る計画とした。	雨水利用やエコマーク材料を採用し環境に配慮した。	雨水抑制水槽を約100tを設け雨水排水不可の低減を図った。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される